

一般質問



令和 2 年度予算案と 財源確保への意欲

問 予算案について、投資的経費の割合は前年度と比較するとどのようになるのか。

答 前年度と比較すると 2 億

8,600 万円ほど増加の見込み。

問 投資をするにも財源が必要。貴重な財源である、ふるさと納税について、昨年度は県内 60 市町村で 42 位。同じ旧産炭地域で人口も近い飯塚市は県内 3 位、約 27 億円も集めている。そのほかにも、本市より小さな自治体が知恵を出し 10 億～44 億円も集めている現状について見解を問う。

答 ふるさと納税については、制度上の課題も多いが、自主財源の確保には重要な手段であると捉えている。今後も引

き続き、他都市の返礼品の内容などを研究しながら寄附金額の向上に努めていきたい。

問 他都市に大幅な遅れを取っていることに憤りを感じる上、現状の体制はいかかなものかと思う。来年度の寄附金の目標額と市長の見解は。

答 目標額 1 億円。制度も有効に活用したい。

再発言 効果が表れるのが早い制度でもあることから、せめて筑後圏域で 1 位を目指すべく目標金額を設定し、達成目指して取り組むべきだ。



人口減少社会への対応としての シティプロモーション戦略

問 市公式キャラクター「ジャー坊」の事業を委託することで期待される効果について聞きたい。

答 民間活力の活用によって子どもを対象にした事業や SNS による情報発信の充実・強化、また新たな関連グッズの開発など、利活用が一層推進されるものと期待する。

市民の健康をつかさどる 保健センター

問 保健センターへの子育て総合窓口の設置の検討について確認したい。

答 同センターは市民の生涯を通じた健康づくりの拠点。健康づくりのスタートである

母子保健との連携した取組が重要であり、今後子育て世代包括支援センターを初めとする子ども家庭課の配置も含めて十分検討していく。

延命公園周辺地区の 魅力向上

問 「ともだちや絵本美術館」の名称決定までの経緯は。

答 昨年 10 月に名称を公募し、県内外から 111 件の応募があった。本年 2 月に開催した名称選考委員会の結果を踏まえ名称を決定した。



市民に寄り添う伴走型の 福祉のまちづくりを

問 これからの福祉のあり方について考えを聞きたい。

答 生活困窮者や複合的な課題がある方などが相談しやすい

い環境を整え、個別の困り事が取りこぼされることがないようにする必要がある。市の総合相談や社会福祉協議会、地域包括支援センター、障害者相談支援事業所などと相互に連携しながら、適切な支援を提供できるようにしたい。

問 直営の 2 地域包括支援センターの伴走型支援や地域包括ケアを推進するためにも、専門職を正規職員として採用すべきだが考えを聞きたい。

答 次期介護保険事業計画の策定において、センターの専

門職の確保、市直営センターのあり方など十分検討したい。

生涯学習の まちづくりと夜間中学

問 夜間中学が設置されれば、就学猶予で通学できなかった障害者の学びの場にもなり得るが、通学には移動支援サービスを利用できる工夫が必要と思う。考えを聞きたい。

答 今後の課題で、夜間中学設置の進捗状況を注視しつつ、希望者の状況も把握しながら柔軟な対応を検討する。